『金襴手ー人々を虜にした伊万里焼ー展』

展覧会概要

会期：2018 年 4 月 4 日(水)～6 月 21 日(木)
会場：戸栗美術館
所在地：東京都渋谷区松濤 1-11-3
開館時間：10:00～17:00（入館受付は 16:30 まで）
※毎週金曜日は 10:00～20:00（入館受付は 19:30 まで）
休館日：月曜日
※4 月 30 日（月・祝）は開館、5 月 1 日（火）は休館。
※毎月第 4 月曜日はフリートークデーとして開館。
入館料：一般 1,000 円/高大生 700 円/小中生 400 円（団体 20 名様以上で 200 円割引）
※5 月 2 日(水)から 5 月 6 日(日)の間、小中学生は入館料無料。
交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩 15 分、京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩 10 分
※当館には駐車場・駐輪場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

美術館概要

戸栗美術館は、創設者 戸栗亨が長年に渡り蒐集した陶磁器を中心とする美術品を永久的に保存し、広く公開することを目的として、1987 年 11 月に、旧鍋島家屋敷跡にあたる渋谷区松濤の地に開館しました。コレクションは伊万里、鍋島などの肥前磁器および、中国・朝鮮などの東洋陶磁が主体であり、日本でも数少ない陶磁器専門の美術館として活動しています。

会期中のイベント

展示解説

当館学芸員による展示解説を行います。
■予約不要（入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください）
■第 2・第 4 水曜　14：00～15：00
（4/11　4/25　5/9　5/23　6/13）
■第 2・第 4 土曜　11：00～12：00
（4/14　4/28　5/12　5/26　6/9）

フリートークデー

展示室でお話しをしながらご鑑賞いただける日です。
■毎月第 4 月曜日（4/23　5/28）
■ 10:00～17:00（入館受付は 16:30 まで）

展覧会のポイントをお話するレクチャーも開催。
■ミニパネルレクチャー　14:00～14:30
■予約不要（入館券をお求めの上ご自由にご参加ください）

とぐりの学芸員講座

当館学芸員による深くやきものを学ぶ講座です。
■2018 年 5 月 21 日（月）14:00～　森由美（学芸顧問）
「白化粧土で装うやきもの」
■2018 年 6 月 11 日（月）14:00～　黒沢愛（GM/学芸員）
「魅惑のやきもの、古九谷」

■各回 90 分程度
■参加費 1000 円（入館料を別途お求め下さい）
■先着 35 名様
■お電話にてお申し込みください（03-3465-0070）

やきもの展示解説入門編

GW 特別企画
初心者向け、やきものの基本が分かる解説です。
■5 月 2 日(水)～5 月 6 日(日)　14:00～15:00
■予約不要
（入館券をお求めの上、ご自由にご参加ください）
■ご参加の方に特製パンフレットプレゼント

伊万里焼の作り方から
鑑賞のポイントまで分かる 1 冊です。

次回展示

古伊万里植物図鑑展

2018 年 7 月 4 日(水)～9 月 22 日(土)

展覧会に関するお問い合わせ
公益財団法人戸栗美術館
広報担当宛
〒150-0046　東京都渋谷区松濤 1-11-3
TEL：03-3465-0070　FAX：03-3467-9813
URL：http://www.toguri-museum.or.jp/
E-mail：kouhou@toguri-museum.or.jp
TOGURI MUSEUM OF ART
財団法人 戸栗美術館

金襴手

―人々を虜にした伊万里焼―展

2018年
4月4日(水)～6月21日(木)

TOGURI MUSEUM OF ART
財団法人 戸栗美術館 プレスリリース

道具から美術へ。

江戸時代、元禄年間（１６８８～１７０４）には好景気を迎え、経済力を蓄えた町人を中心に元禄文化が発展します。贅を好む風潮の中で、色絵の豪奢なうつわを求める気運が高まりました。そうした需要に応えるように、伊万里焼に**「古伊万里金襴手様式（こいまりきんらんでようしき）」**が成立します。この色絵と金彩を施したうつわは、高級食器として富裕層の間で大変好まれ、以降、伊万里焼を代表する様式となります。また、同時期に海外輸出向けにも古伊万里金襴手様式の壺や皿が生産され、西欧の王侯貴族にも食器や室内装飾品として人気を博しました。

明治時代になると、それまで道具であった様々な工芸品が鑑賞品として評価されるようになります。食器であった伊万里焼にも、鑑賞を目的に愛好し、蒐集する外国人や日本人があらわれましたが、真っ先にその対象とされたのが古伊万里金襴手様式でした。

江戸時代の**高級食器から、美術品へ。**今展では、いつの時代も人々を虜にしてきた絢爛豪華な古伊万里金襴手を展観いたします。

みどころ１ 名品揃い！70点の古伊万里金襴手の饗宴

古伊万里金襴手様式の最上級品は、「型物（かたもの）」と呼ばれています。今展では、その型物を多数展示。また、旧重要美術品に登録されていた作品と同形同意匠の作品、初出展作品を含む約 70 点の多様な古伊万里金襴手を展示いたします。

色絵 赤玉雲龍文 鉢
伊万里 江戸時代(17 世紀末～18 世紀初)
口径 25.8 ㎝
中心に雲龍文、周囲に赤玉を配した鉢。赤色が印象的な型物を代表する優品。

初出展 ②色絵 花鳳凰文 皿
伊万里 江戸時代(18 世紀前半)
口径 54.1 ㎝
桜・牡丹・松竹梅と鳳凰を華やかに描いた大皿。輸出品の中でも、最大級の大きさ。西欧において室内装飾品として飾られたものだろう。金彩の剥落は少なく、極めて保存状態は良好。

みどころ２ 美しいだけじゃない！古伊万里金襴手誕生の謎

古伊万里金襴手様式の中には、「柿右衛門」と分類されていた一群があります。それらは、独特なデザインと丁寧な作行きから名工柿右衛門の作とも六代の叔父・渋右衛門の作とも言われてきました。そのため、近代においては、伊万里焼の中でも一段高い評価を得ていました。今ではそれらは、柿右衛門様式から古伊万里金襴手様式への過渡期のスタイルと考えられています。美しいだけでなく、伊万里焼の研究史に思惑の華を咲かせた古伊万里金襴手をご紹介します。

色絵 花弁文 輪花皿
伊万里 江戸時代(17 世紀末～18 世紀初)
口径 34.2 ㎝
旧重要美術品認定作品と同形同意匠の作品。上手のため、柿右衛門や渋右衛門の作と考えられていた。

③色絵 石畳蔓草文 皿
伊万里 江戸時代(17 世紀末～18 世紀初)
口径 22.6 ㎝
皿の上方は余白をとって蔓状の植物を描き、下方は石畳文で埋める。元禄期の丁寧な作行きを持つ一群のひとつと考えられる。

みどころ３ 時代を超える古伊万里金襴手の魅力

18世紀には、国内では高級食器、西欧では食器や室内装飾品として流行した古伊万里金襴手様式。これらは現在では、美術品として扱われています。伊万里焼が、使用するものから、鑑賞するものへと変化したのは、万国博覧会への参加や工芸品を鑑賞していた外国人らの影響を受けた明治時代以降のことです。時代が変わり、うつわの目的も変わり、それでもなお人々を惹きつけ続ける古伊万里金襴手様式。今展では、江戸時代から近代の古伊万里金襴手の人気を辿り、その魅力を探ります。

④色絵 獅子牡丹菊梅文 蓋付壺
伊万里
江戸時代(17 世紀末～18 世紀前半)
通高 74.6 ㎝
沈香壺と呼ばれる形の壺。西欧向けの輸出品として作られ、宮殿の広間などに飾られた。染付による濃い青色と多用された金彩のコントラストが眩い。

⑤色絵 雪輪亀甲文 桃形皿
伊万里 江戸時代(18 世紀前半)
口径 21.2×20.2 ㎝
赤地に金の唐草文がめぐる桃形皿。桃の節句など、祝いの席に相応しいうつわ。

【伊万里焼】いまりやき
江戸時代に現在の佐賀県有田町とその周辺で作られたやきもの。伊万里という港から全国へ出荷されたため、伊万里焼と呼ばれる。

【古伊万里金襴手様式】
染付に色絵と金彩を用いた様式。17 世紀末から18 世紀初頭に伊万里焼に成立した。現在の伊万里焼（有田焼）のベースとなる様式。

①色絵 荒磯文 鉢
伊万里 江戸時代(17 世紀末～18 世紀初) 口径 24.7 ㎝
うつわの中心に荒磯文と呼ばれる波に跳ねる鯉の図を染付で描いた鉢。鯉は龍になるため、立身出世の意味がある。周囲は色絵と金彩の唐草文を描く。萌黄色の明るい緑彩が全体の印象を穏やかで品格高いものにしている。古伊万里金襴手様式の最上級品である「型物」の代表作。

【色絵】いろえ
釉薬(うつわを覆うガラス質の膜)の上に赤や緑、黄色などの色絵具を焼き付けたもの。磁器を焼成した後に、表面に絵付けを施し、再度焼き付けるための焼成を行う。手間がかかるため高級品となる。

【染付】そめつけ
釉薬の下に青色となる顔料で文様をつけたもの。素地(うつわの粘土部分)に直接絵付けを施し、釉薬をかけて焼成することで、文様があらわれる。伊万里焼で最も多用される装飾技法。

染付 荒磯文 鉢
伊万里 江戸時代(17 世紀末～18 世紀初) 口径 26.1 ㎝
荒磯文を描いた鉢。染付で区画分けをあらわしただけの大変珍しい半製品である。本来なら上から色絵と金彩を施し、低火度で焼き付けて完成となる。完品と比べると染付から色絵への手順がうかがえて興味深い。

※作品①～⑤の写真データ等をご用意しております。ご掲載の際は、別紙写真借用申請書をお送りください。